

自由で気まぐれで最強にかわいい子どもたちとの奮闘の記録とスーダン暮らしのいろいろ



vol.3

# Letter from SUDAN

الرسالة من السودان



サハーフアユースセンターにて。雨季にだけ見られる虹と子どもたち。高い建物がないので、端から端までしっかり見ることができます。

## 1 はじめに

アッサラームアライクム！（こんにちは）青年海外協力隊2017年2次隊、青少年活動・千頭佐和子です。

スーダン共和国の首都ハルツームの青年スポーツ省に所属し、ユースセンターや学校を巡回しながら青少年にスポーツ振興を行う活動をしています。

現在スーダンは雨季を迎えています。と言っても、首都のハルツームは週に一回降るか降らないかという状態ですが、排水インフラや道路がまだまだきちんと整備されていないため、一晩降ると水没してしまう箇所もあります。ズボンを捲り上げてザブザブ歩かないといけない中、陸地から陸地へ小さな飛び石が置かれていることもあり、ふとしたスーダン人の優しさにほっこりします。

このレターではスーダンでの出来事や感じたこと通して、みなさんの中のスーダンやアフリカのイメージが少しでも身近なものに変わってくだらいいなと思います。

## 2 断食月「ラマダン」

今年のラマダン月は5月16日～6月14日の30日間でした。

イスラム教徒はこの1か月間、日の出から日没まで断食をはじめとする禁欲を義務付けられており、水はもちろん、タバコやガムなども口にしません。（年配者、妊婦、病人、子ども、旅行者などは免除、もしくは後日別日程で断食を行います）

私たち日本人にとっては苦行のようには思えますが、断食の目的は、

- 精神的鍛錬、自身の信仰心を清める
- 食べ物があることへの感謝と貧しい人々への理解
- 同じ状況を共有することによる家族やコミュニティとの一体感を得る

ことにあるといい、礼拝をしたり、普段会えない親戚で集まってご飯を食べたり、イメージ的には日本のお正月のようなもの。イスラム教徒にとって、かならずしも苦しく辛いだけなものではないようです。

イスラム教で使われているヒジュラ暦は太陽暦と比べて年間11日ほど短く、毎年それが積み重なるため、ラマダン月も少しずつずれていくのですが、今年のラマダン月のスーダンの季節は日中40度をこえる真夏。私の断食チャレンジは初日のみで終了しました。

ラマダン一番の楽しみはなんといっても食事。日没後の食事は朝食扱いの「イフタル」と呼ばれ、ラマダン中の特別な料理が並びます。この時間に道を歩くと、男性たちが路上にご飯を広げて食事しており、誘ってくれることもあります。



招待してもらったイフタル。女性は家の中で食べます。

### 3 活動先紹介② サジャーナユースセンター

現在、私は3か所のユースセンターと5か所の学校を巡回してスポーツ振興を行っています。スーダンでは一般的に学校のカリキュラムに体育の授業がないため、子どもたちは夕方4時ごろ涼しくなってきたから地元のユースセンターに集まり、スポーツを楽しんでいます。

今回ご紹介するサジャーナユースセンターはバレーボールコート、ジム、芝生広場、音楽室、調理室、コンピューター室、劇場など、スポーツだけではなく、文化的な設備も備えている地域密着型のセンターです。

日没前は子どもたちがスポーツを、日没後は大人の文化活動に利用されており、定期的にセンターの利用者によるコンサートなども開かれます。

ここでは、6～13歳（スーダンの小学校にあたる年齢）が所属する地元少年サッカーチームのコーチをさせていただいています。全体で2個しかボールがないので、年齢が大きい子も小さい子も一緒に練習しています。体の大きさ、技術的にはどうしても差はできてしましますが、小さい子は遠慮なく大きい子にチャレンジして、時には対等に喧嘩もし

ながら成長している印象です。しかし、年齢が大きくなるにつれ、技術的にはまだまだでも、ゲームだと自分より小さい子に対して自分の好き勝手に気分良くプレーできるため、基礎練習を嫌がってすぐにゲームをしたがり、プレーが傲慢になる傾向があります（もちろん全員ではありません）。これ以上の成長が見込めなくなってしまう状態です。

環境による長所・短所はさまざまありますが、まずは技術的なことよりも、精神的な成長の手助けができるような働きかけをしていきます。



サッカー練習後の集合の様子



となりのバレーコートでは男子バレーチームが練習



ボクシングチームの練習風景

### 4 サッカー大好きスーダン人！ロシアワールドカップ

みなさんはサッカーW杯、ご覧になっていましたか？スーダンではロシアからほぼ時差なしのマイナス1時間で見ることができました。

スーダンのW杯が放送されるチャンネルは、視聴料が高価なため、基本的に飲食店やユースセンターなどで行われるパブリックビューイングに集まって観戦します。

サッカーは人気の高いスポーツで、Jリーグより歴史の長い国内リーグ（1962年～）も開催されています。

決勝戦ではなんと200人以上がひしめき合って一つのテレビに釘付けになっていました。

ただ、ひとつ残念だったのは、女性が私だけだったということ。男女が分離されがちなのは宗教的・文化的な背景もあり、スポーツに限った話ではないのですが、まだまだサッカーは男性のスポーツという印象が強く、女性がサッカーをする、という環境になるには、まだまだ努力と時間が必要だな、と感じました。

ベルギー対日本戦もユースセンターで観戦しましたが、スーダン人も一緒に応援してくれ、一生忘れられない素敵な思い出になりました。



決勝戦のパブリックビューイング

2018.08.31



#### 千頭佐和子（ちかみさわこ）

高知県高知市、1982年11月生まれ。青年海外協力隊2017年2次隊、青少年活動。JFA公認サッカーC級コーチライセンス保有。アフリカ北東部にある青ナイル川と白ナイルの合流点に位置する砂漠の国スーダン共和国にて活動中。高知の建設機械会社で11年間広報業務に従事、平日の夜と週末はサッカー漬けの生活を送っていたが、スポーツの素晴らしさを子どもたちに伝えるべく、現在は首都ハルツームにあるユースセンターや学校で、青少年へのスポーツ振興を行っている。

ブログ：JICAボランティアの世界日記「サーミヤコーチのスーダン滞在日記」<http://world-diary.jica.go.jp/chikamisawako/>